

第3学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

働くことの喜び 「C-(13) 勤労」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通して社会に貢献しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「たんぼぼ作業所」 (東京書籍 新しい道徳3)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

「勤労」とは、自分の務めとして心身を労して働くことである。働く目的には、働くことで得られる収入で個人や家庭の生活を維持することや社会の中で一定の役割を果たすことが挙げられる。職業は、一人一人の人生の中で重要な位置を占めており、働くことそのものが、よりよく生きることと深くつながりがある。そこで、働く目的だけではなく、勤労の尊さや意義、勤労を通して社会に貢献することについて考えを深める必要がある。働くことの喜びや社会とのつながりについて考えることで、勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献しようとする態度を育むことができると考える。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、職場体験学習や進路指導等、これまでの学校生活を通して、勤労の尊さや意義について理解している。しかし、職業選択においては、個人の好みや経済性を優先させてしまう傾向にある。例えば、「自分のやりたい職業に就きたい」「収入が安定している職業に就きたい」等と考えている生徒が多い。生徒の実態を踏まえると、「勤労」という道徳的価値について、勤労の尊さや意義について理解し、勤労を通して社会に貢献しようとする自分とそうでいていない自分との葛藤から生じる問題があると考えられる。

そこで、働くことの喜びについて考えさせ、勤労を通して社会に貢献しようとする道徳的実践意欲と態度を育てていきたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、高校卒業後、障がい者の自立を援助し、働く場を提供することを目的として開設された福祉施設「たんぼぼ作業所」に就職した沢村くんの話である。沢村くんは、川野修一くんを担当することになったが、自分の仕事に自信が持てず、不安な日々が続いた。ある日、作業の途中で修一くんが作業場を離れ、いなくなってしまう。沢村くんは、他の職員にも協力してもらい、公園にいた修一くんを見付ける。翌日、修一くんの母からお礼の手紙が届く。手紙を読んだ沢村くんは、自分の仕事の意義や働く喜びについて考える。

本時の指導に当たっては、授業当日の朝、生徒に資料を読ませておき、内容を理解させ、授業中の考える時間を確保する。授業では、中心場面を、沢村くんが修一くんの母からの手紙を読み、修一くんとの出会いから自分の仕事について考える場面に設定する。生徒には、自分の仕事に意義を見出せないときの気持ちを自分との関わりで考えさせながら、働くことに喜びを感じるためには、社会に貢献することに目を向ける必要があることに気付かせたい。

4 学習指導過程

	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>○主な発問 (◎中心発問) ・予想される反応</p>	<p style="text-align: center;">指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 「人は○○のために働く」の○○に入る言葉は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金 ・生きる ・家族 ・誰かを助ける ・地域 ・欲しいものを買う <p>○ 「私は○○のために働く」の○○に入る言葉は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金 ・生きる ・家族 ・誰かを助ける ・地域 ・欲しいものを買う <p>○ 働く目的が達成できたとき、どのような気持ちになると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嬉しい ・働いて良かった <p>○ 普段、生活しているときに感じる嬉しい気持ちと働くことで得られる嬉しい気持ちは同じだと思いますか。違うと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ ・違う <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">働くことの喜びって何だろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいについて問題意識を持たせるために、導入で働く目的についての生徒の考えを取り上げる。 ・働く目的を自分との関わりで考えさせるために、発問の主語を「人」から「私」に変えて、問い返す。 ・主語が「人」と「私」のときの生徒の考えの違いや共通点に着目し、生徒の社会に貢献しようとする道徳的価値についての実態を再確認する。 ・課題をつかませるために、働く目的を問うと同時に、その目的が達成できたときの気持ちを問う。 ・働くことの喜びに焦点化させるために、普段、生活しているときに感じる嬉しい気持ちと働くことで得られる嬉しい気持ちを比較させる。
<p>展開 37分</p>	<p>3 働くことの喜びについて考える。</p> <p>○ 数ある仕事の中でぼくは、どうしてたんぼぼ作業所に就職しようと考えたのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立つことがしたいと考えていたからです。 ・ボランティア活動での障がいのある子供たちとの触れ合いが忘れられなかったからだと思います。 ・将来は障がいのある人たちのために何か仕事をしたいと思っていたからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が資料の内容を理解した上で発問について考えられるよう、教材の挿絵を活用して資料の内容を確認する。 ・主人公の心情について考えさせるために、範読を聞くときの視点を与える。 ・個人の好みや経済性以外の働く目的があることに気付かせるために、ぼくがたんぼぼ作業所を就職先に選んだ根拠となる考えについて考えさせる。 ・たんぼぼ作業所を就職先に選んだぼくの考えを表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・この学級の中で、福祉施設で働きたいという人はいますか。それはどうしてですか。 ・ぼくがたんぼぼ作業所を就職先に選んだ理由は、(導入で考えた) ○○のどの考えと似ていますか。 ・ぼくがたんぼぼ作業所を選んだ考えに、みなさんは共感できますか。 </div>

○ 胸がしめつけられるような思いとは、どのような思いだと思いますか。

- ・頑張っているのに、うまくいかなくて、苦しい思いです。
- ・働く意味を感じないと思います。
- ・どうしたらよいか分からないと思います。
- ・やめてしまいたい思いです。

○ 不安そうな様子だった母親がぼくにお礼の手紙を書いたのはどうしてだと思いますか。

- ・修一くんの生活が少しずつ変わってきて、嬉しかったからだと思います。
- ・ぼくが修一くんのために一生懸命に働いてくれていることが分かったからだと思います。

◎ 仕事に対して、ぼくが少し分かりかけたこととは、どのようなことだと思いますか。

- ・頑張っていることは、必ず相手に伝わるということだと思います。
- ・自分の仕事の大切さが分かったのだと思います。

・働くことに喜びを感じることができていないときの心情に共感させるために、仕事に不安を感じるぼくの心情について考えさせる。

・仕事に不安を感じるぼくの心情を表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問

・自分で選らんだ仕事なのに、どうして胸がしめつけられるような思いになってしまうと思いますか。

・仕事を頑張っているのに、母から「あの先生、若いけど大丈夫ですか」と言われたら、どのような気持ちになりますか

・自分だったら、この仕事を続けていきますか。

・自分に向いていない、自信が持てないという仕事を続けることはできますか。どうしてですか。

・仕事を変えることも考えられると思いますが、それについてはどう思いますか。

・仕事を変えることはいけないことなのですか。

・仕事を変えれば、胸がしめつけられるような思いはしなくなるのですか。

・次の仕事も自分に向いていないと感じたらどうすればよいのですか。

・ぼくの仕事が、修一くんや母親の生活の支えになっていることに気付かせるために、母親が手紙を書いた根拠となる考えについて考えさせる。

・ぼくの仕事が修一くんと母親の生活に貢献していることについて考えを深めさせるための問い返しの発問

・ぼくは仕事として当たり前のことをしただけなのに、母親はお礼の手紙を書く必要があると思いますか。

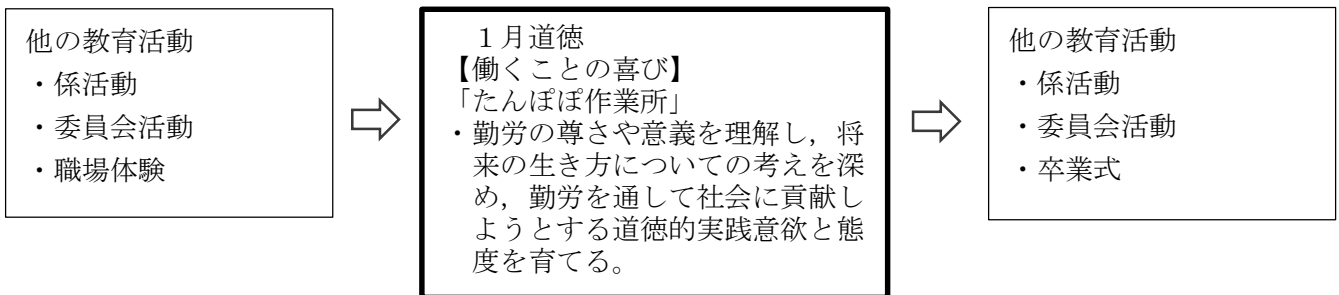
・社会に貢献しようとするぼくの気持ちに気付かせるために、修一くんの母からの手紙を読んだあとの僕の心情について考えさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> 自分の仕事は修一さんと母親の大きな支えとなっていることだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 修一さんの母からの手紙を読んだあとの僕の心情について、表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ぼくは働くことの喜びを感じていますか。その喜びとは、どのような喜びですか。 働く喜びを感じるためにはどのようなことが大切だと思いますか。 </div>
終末 8分	<p>4 自己の生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 働くことの喜びについて、分かったこと、友達の考えを聞いていいなと思ったこと、これからの生活に生かしていきたいことについて書きましょう。 働くことに喜びを感じるには、自分の仕事に自信を持つことが大切だと思いました。 自分の頑張っていることが相手に伝わっていないと思っても、本当は相手の役に立っていることもあると思うので、続けることが大切だと思いました。 働くことの喜びについて、教師の説話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。

【評価】

働くことの喜びについて、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生き方に生かそうとしていたか。

5 他の教育活動との関連

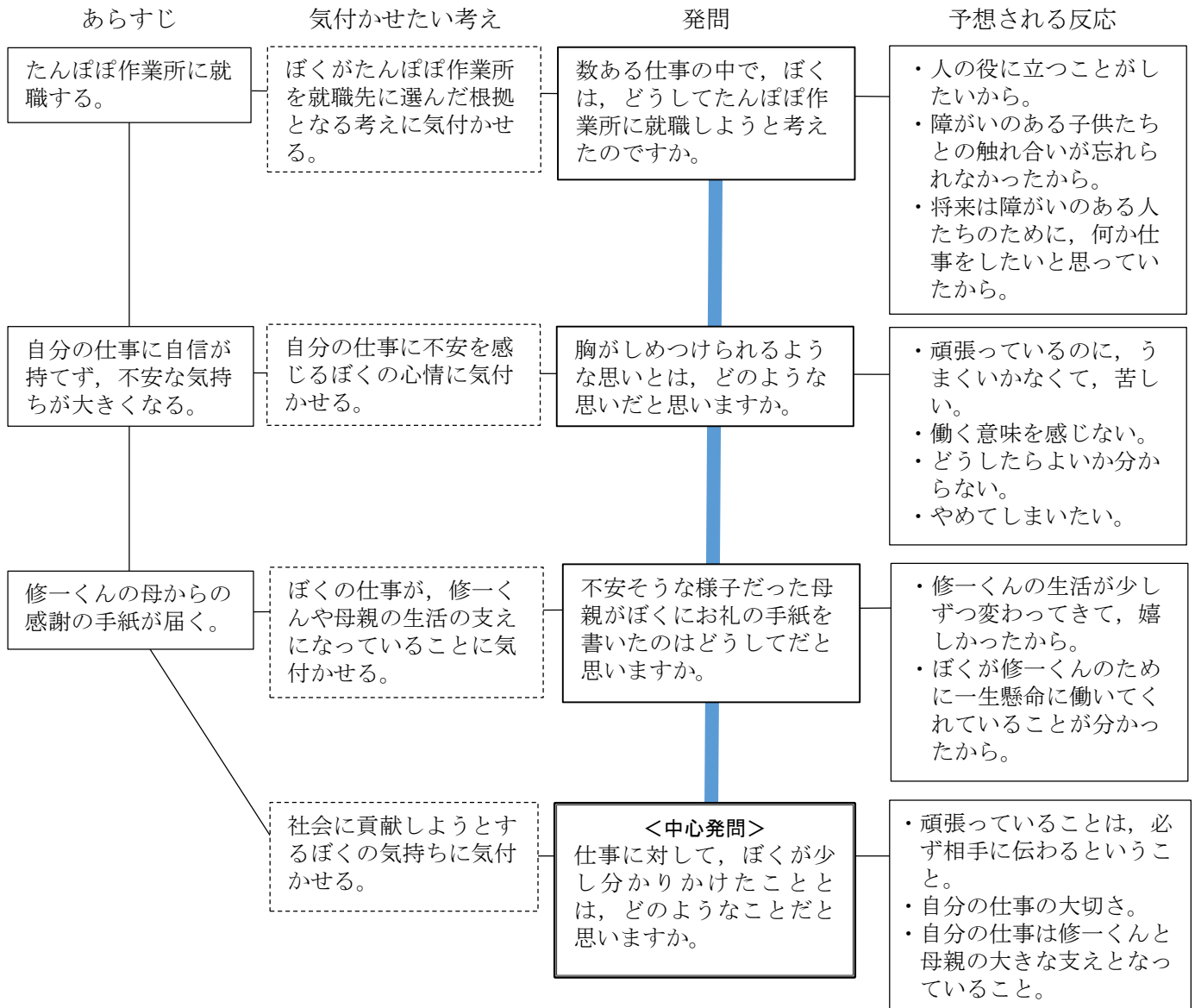


6 補充・深化・統合の視点【深化】

「働くことの喜び」という道徳的価値について、生徒は、職場体験学習や進路指導等、これまでの学校生活を通して学んできている。

本時は、生徒の実態を踏まえ、収入や経済性など、働く目的だけを重視するのではなく、勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献することが大切であることに気付かせる授業である。社会に貢献することで得られる成就感や充実感、勤労を通して社会に貢献し、よりよい生き方を追求していくことにつながる。「働くことの喜び」という道徳的価値について、生徒の考えを、本時の授業を通してより一層深めていきたい。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

教師：教科書、教科書挿絵、学習プリント

生徒：筆記用具

※ 教師の説話の内容

今日は働くことの喜びについて、考えてきました。「働」という漢字に線を一本引いて意味を分けるとしたら、どこに線を引きますか。「働」という漢字には「人」が「動く」という意味が込められています。「はたらく」という言葉に線を一本引いて、意味を分けるとしたら、どこに線を引きますか。「はたらく」という言葉には「はた」を「らく」にするという意味があります。

「働く」という言葉には、他の人を幸せにするために、人が動くという意味があります。今日の授業では更に、働くことで自分自身が感じる喜びは何だろうということについて考えてきました。皆さんの考えから、働くという言葉に込められた意味が更に分かったような気がします。

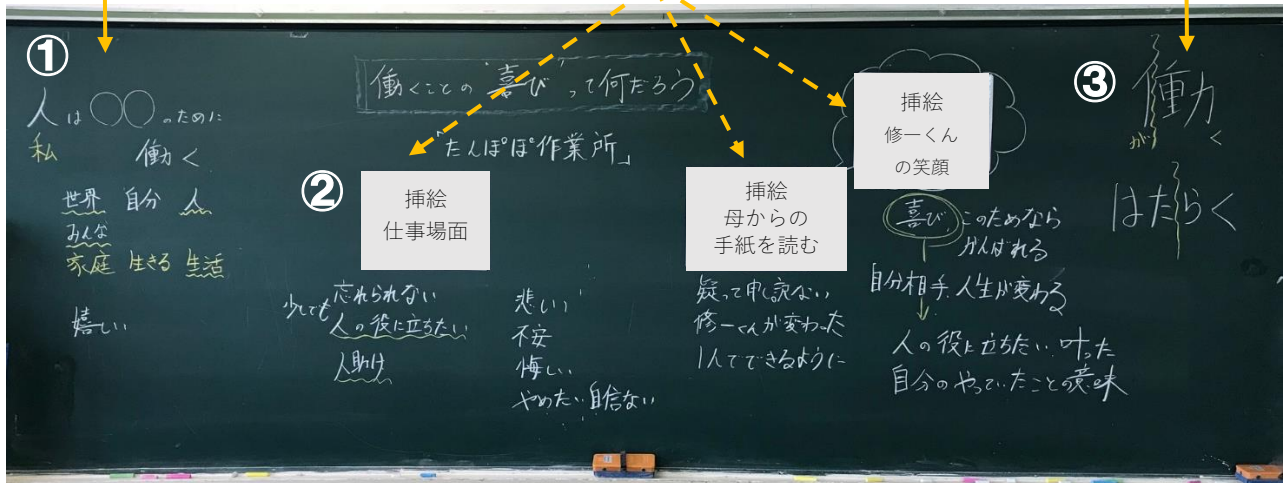
9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

①ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態を把握するために穴埋め形式の問いを提示した。

②範読前に挿絵を使ってあらすじを確認した。ぼくは働いているときどのような気持ちだったのかという範読を聞く視点を与えてから範読した。

③終末に板書を活用しながら教師の説話をを行った。



(1) 導入

授業開始時に、ねらいとする道徳的価値に関する生徒の考えを公表させた

○ 「働く喜びって何だろう」という本時の課題につなげるために、導入では「人は○○のために働く」という穴埋め形式の問いを設定した。以下に、実際の生徒との対話の記録を紹介する。

生徒との対話記録

- T 「人は○○のために働く」の○○にはどのような言葉が入ると思いますか。
自分の考えを公表してください。
- S 世界です。自分です。人です。みんなです。
- T それでは、主語を「私」に変えたら、どのような言葉が入りますか。
- S 家庭です。生きるです。生活です。
- T 働く目的は様々ありますね。
働く中でこれらの目的を達成できたとき、どのような気持ちになりますか。
- S 達成感を感じます。嬉しい気持ちです。
- T 普段生活していて感じる嬉しいという気持ちと、働くことを通して感じる嬉しいという気持ちは同じだと思いますか。違うと思いますか。
- S (ほとんどの生徒) 違うと思います。(少数の生徒) 同じだと思います
- ※ 「違う、同じ」と答えた根拠となる考えについては、教材を通して考えさせていく。
- T 違うと考えている人が多いようですね。今日は、働くことを通して感じる嬉しい気持ち、つまり、働くことの喜びって何だろうということについてみんなで考えていきたいと思います。
- ※ 課題を提示

日常生活で感じる喜びと働くことで得られる喜びを比較させたことで、働く喜びとはどのようなものなのかという問題意識を生徒に持たせることができた。

(2) 展開

生徒の考えを深めさせるために、問い返しをした

- ぼくの胸がしめつけられるような思いに共感させる場面で、「自分だったら仕事を続けるか」「仕事を辞めて、仕事を変えるか」という問い返しをした。

授業者としては、どちらの選択も大切であり、答えが一つではないことを前提にして、仕事に悩むぼく的心情を自分との関わりで考えさせたかった。しかし、生徒から出された考えの中には、仕事を続けることがよいことで、仕事を変えたり、辞めたりすることは、嫌なことから逃げ出してしまふ悪いことだという考えが多かった。そのため、仕事を変えた方がよいと考えている生徒が、自分の考えを発表しづらい状況になってしまった。

実践を通して、「自分だったら～」の問い返しの際に、「どちらか一方が正解ということではない」という留意点を生徒に伝えた方が、多数派、少数派に意見が分かれた際にも、生徒が自分の考えを発表しやすいと思った。

また、ぼくの胸がしめつけられるような思いや仕事を続けるか、辞めるかという葛藤は、生徒自身が今後、直面するであろう葛藤場面でもある。そのことを踏まえると、「自分だったら～」と考えさせた後に、「きっとぼくの中にも今、みんなが考えたような葛藤があったのだろうね。そして、将来、みんなも働いたら、ぼくのように葛藤する場面に出合うかもしれないね」と生徒に声を掛けた方が、より自分との関わりで考えさせることができると感じた。

- 「不安そうな様子だった母親が、ぼくにお礼の手紙を書いたのはどうしてだと思いますか」という発問を通して、母親の心情について考えさせた場面で、更に「ぼくは仕事として当たり前のことをしただけなのに、母親はお礼の手紙を書く必要があると思いますか」という問い返しをした。

1回目の実践では、「『自分にできないことをぼくが修一くんにしてくれた』と母親は考えたからぼくにお礼の手紙を書いたのではないか」という考えが出された。その考えを基にして、終末では「仕事は、自分の人生や相手の人生を変えることができる」や「自分の仕事で相手の生活や人生の可能性を広げることができる」という考えも生徒から出された。

2回目の実践では、同じ問い返しに対して、「母親は感謝の気持ちを伝える手段として手紙を書いたのだと思う」という考えが出された。しかし、そこから、社会に貢献したぼくの仕事について、生徒の考えを深めることができなかった。

1回目の実践と2回目の実践を比較すると、1回目の実践で生徒から出された考えの方がねらいとする道徳的価値に迫っていると感じた。

2回の実践を振り返って考えたことは、本時において、勤労という道徳的価値に迫るためには、ぼくは、仕事を通して社会（修一くんや母親）にどのように貢献することができたかということについて、生徒に考えさせることが大切であるということだった。つまり、2回目の実践では、「母親が伝えたかった感謝の気持ちとは、具体的にどのようなものだったのか」とか「修一くんの生活が少しずつ変化していったとき、母親はどのような気持ちになったのか」ということについても生徒に考えさせることで、勤労の意義や働くことの喜びについての考えを深めさせることができたのではないかと考えた。

(3) 終末

自己の生き方について考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

「働く喜びとは何だろう」という課題について、自分の考えを書かせた。以下に、生徒の考えを紹介する。

生徒の感想（1回目の実践）

- ・ 友達の考えの中で「主人公のぼくは働くことの嫌な面しか見ていなかったから仕事を辞めようと思ったけれど、働くことの喜びを知ったので、次からは頑張れると思う」という考えに共感した。
- ・ 働くことは自分のためだけでなく、他人のためでもあるから逃げられないと思った。
- ・ 働くことは苦労の方が喜びよりも多くあるため、その分、喜びも大きくなると思う。だから、人助けをするときは、少しの苦労で諦めないで、決めたことは最後まで取り組むことが大切だと思った。また、あらゆる行動には苦労があるものなので、諦めずに取り組みたい。
- ・ これから自分が働くことを想像してみると、主人公と同じように苦しいことがあると思うけれど、諦めずに満足できるように最後までしっかり働きたいと思った。
- ・ 自分の仕事に対して不安を感じていても、その仕事のやりがいを見付けることで続けられることが分かった。
- ・ 仕事を通して自分がしたかったことを実現することが喜びなのだと分かった。自分には向いていないと思っていても、いつかは他人から褒められたり、認められたりすることを覚えておきたい。
- ・ 自分が望んでいた仕事に就いても挫折や辛いことがある。それを乗り越えてやりがいを感じたり、これまでの自分の行動はちゃんと意味があるものだったのだと感じたりすることができる。それが働くことの喜びなのかもしれない。
- ・ 働くことは、喜びがあることで「もっとやりたい」「長く続けたい」という気持ちになることが分かった。友達の意見の中で、仕事は自分や近くの人々だけでなく、世界の知らない人々の役に立つという意見が印象に残った。
- ・ 私は最初のクイズ（導入）のときに、働くことは自分の幸せのためだと思っていたが、私が働くようになったときに、他の誰かの人生をよくすることができたらいいなと思った。
- ・ 自分がしたことのおかげで人が笑顔になったら自分も笑顔になり、幸せな気持ちになると思う。人のためになることを当たり前でできる人になりたいと思う。

生徒の感想（2回目の実践）

- ・ 自分に自信がなくても、自分で選んだ仕事なら、誇りを持って堂々とすることが大事だと思った。
- ・ 人の役に立つことは難しいけれど、諦めないで、その人に寄り添えば、きっとできなかったことができるようになることが分かった。
- ・ これからの生活で何かをするときに、目に見えるような成果がなかなか出なくても、いつかは成果が出ることを信じて頑張ることを心掛けたいと思った。頑張って働いていれば、いずれは喜びを感じることができるようになると思った。
- ・ 今日の授業で喜びの意味が分かった。前までは喜びは、嬉しいとか別の意味で捉えていたけれど、今回の授業を通して、人に感謝されたり、挫けそうなきも諦めないで努力した先にあったりするのが、本当の喜びだと感じた。友達の意見を聞いて、様々な考えが出てきて、自分一人では考えられないこともあるのだなと思った。
- ・ 働くことの喜びについて深く考えることができた。授業の最後に、みんなが「努力が大切」と言っていたけれど、努力するのは簡単だと思った。それを続けたいとしっかりとした達成感を得られないと思った。
- ・ 働くことの喜びとは、仕事をして給料を得るだけでなく、感謝されたり、自分の変化や成長を感じたりすることだと思った。
- ・ 将来働くようになったら、ぼくみたいに不安や辞めたいと思うかもしれないけれど、その仕事を続けて、自分を信じようと思った。みんなの意見を聞いて、自分の考えが深まった。自分の意見を言えるようにしたい。